



熊だけじゃない、ネズミにも異変！

昨年は日本のあちらこちらで熊出没のニュースが飛び交った。山里にとどまらず、都市近郊、さらには大都市の中心部にも出没する事態となった。そうした中、寒くなれば冬眠して、春までの間は出没しないのではないかとの期待もあったが、これも一部、裏切られた▼担い手不足で山に手が入らなくなつて放置された森に実が少なくなった、山の木々が実をつけないのは温暖化によるものだ、熊が人に慣れて人を恐れなくなつてしまった、等々、いろいろな原因が取りざたされているが、おそらくはこれらが複合化して原因となっているのである。そしてベースにあるのは、プロパンガスの普及による燃料革命、そして木造住宅の減少で、薪や建材としての木材の需要が激減して、林業経営が成り立たなくなつての、山里の限界集落化の進行ではないか▼このように熊は全国的に話題となったが、東京をはじめとする町中ではもう一つ、ネズミだ。ネズミといえば、これまでは地下街で生活していたドブネズミが繁華街に進出し、これに温暖化で繁殖しやすくなったことも手伝つて、ごみ袋に群がるネズミが取りざたされてきた▼これに加えて、最近では都市農地にもネズミが出没し、「植わっているサツマイモをめちやくちや食べられた」「ベテラン農家も経験したことのないすさまじい被害」が発生している。東京の府中市農業後継者連絡協議会は急増する農地のネズミ被害に耐えかねて、農地のネズミ対策特設サイトを設け、ネズミ被害の情報収集を開始し、これらの分析と研究に取り組みつつある▼そもそも人間と熊をはじめとする動物は棲み分けしてきたが、気候の変動や人間の活動の変化が、棲み分けの境界線を変動させ曖昧にしつつある。

(土着菌)